

# 後援会だより

第 23 号

2017 年 3 月 15 日発行

編集発行／鹿児島大学法文学部後援会

## 本誌の案内

○ごあいさつ			
後援会会長	1	就職活動にかかる交通費の一部支援事	4
法文学部長（後援会顧問）	2	○主な支援事業の成果報告	5
○専門職大学院報告		留学支援金支援	6
司法政策研究科	2	各種実習への支援	7
臨床心理学研究科	3	大学院生の学会発表支援	9
○就職支援事業		○保護者の皆様からのメッセージ	10
平成28年度就職支援室活動報告	4	○平成28年度保護者アンケート集計結果	10
		○平成28年度後援会役員一覧	16

## 後援会会長ごあいさつ

法文学部後援会会長 石堂 敦志



会員ならびにご家族の皆様におかれましては、つつがなく穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を顧みますと、例年のごとく様々な出来事が起こり世間を騒がせました。

国内では、甚大な被害をもたらした熊本地震、多発した高齢者による運転事故、国民的アイドル「SMAP」の解散、リオ五輪でのメダルラッシュなどがありました。国外においては、米国のトランプ現象、韓国の大統領弾劾、イギリスのEU離脱、世界各地で頻発した紛争や移民流出など枚挙にいとまがありませんが、皆様におかれましてはどのような一年だったでしょうか。

今年が皆様にとって、より良い年となりますよう心よりご祈念申し上げます。

さて、この「後援会だより」が皆様のお手元に届くのは、桜の開花が待ち遠しい3月頃であろうかと思えます。

受験の難関を突破して鹿児島大学法文学部に見事合格された新入生の保護者の皆様、このたびは誠にありがとうございます。晴れの入学式を心待ちにしておられることでしょう。

本後援会では、子どもたちがこれから通うこの法文学部で、より充実した大学生活を過ごすことができるように、目的に応じたさまざまな事業を行っております。

大学は勉学する場ではありますが、一方では社会に巣立つまでの数年間の大学生活のなかで、さまざまな経験を通じて、判断力・コミュニケーション力・社会適応力などを身につけていく大切な時期でもあると思います。

これからも、本後援会では会員という立場を通して、子どもたちの成長を支援してまいりますので、後援会活動に対するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

在学生の保護者の皆様、今年も、子どもたちが学生としてやるべきことをしっかりとやって、経験を通して様々なことを学び、充実した学生生活を過ごすようお願いしています。

卒業生の保護者の皆様、「出会いは偶然、別れは必然」という言葉を聞いたことがあります。子どもたちがこの鹿児島大学法文学部において、多感な時期に学んだ知識や経験・育んできた友情は、これからの彼らの人生を豊かなものにしてけると信じます。

私事で恐縮ですが、私の2人の息子たちもこの3月に大学を卒業して、社会に巣立つこととなりました。これからの新しい生活の始まりに向けて、<sup>はなむけ</sup> 饞として息子たちに贈った私の好きな「いきものがかり YELL」のフレーズをご紹介します。

「サヨナラは悲しい言葉じゃない それぞれの夢

へと僕らを繋ぐ YELL ともに過ごした日々を胸に抱いて 飛び立つよ 独りで 未来 (つぎ) の空へ

子どもたちの卒業を祝福するとともに、これまでの後援会活動に対する皆様のご理解とご協力に心より感謝して、ごあいさつとさせていただきます。

## 法文学部長ごあいさつ

法文学部長 (後援会顧問) 高津 孝

法文学部は、平成29年4月より、新しい組織に改組することになりました。それ以前の入学生については旧制度を維持し、旧カリキュラムを卒業まできちんと実施いたしますので、ご安心ください。授業内容には新しい要素が加わり、より充実したものになります。



### 2学科5コースへ

これまでの3学科体制 (法政策学科、経済情報学科、人文学科) を2学科5コース体制にいたします。2学科とは、法経社会学科、人文学科です。

#### 法経社会学科

法経社会学科は、法政策学科、経済情報学科を統合したもので、3コース：法学コース、地域社会コース、経済コースに分かれます。

法学コースは、法学・政治学の知見と広範な視野を持ったゼネラリストを養成するコースです。

地域社会コースは、地域で学び地域を理解し、地域づくりに貢献できる人材を養成するコースです。

経済コースは、経済・経営・情報分野の知識を持った、地域の中核的人材を養成するコースです。

#### 人文学科

人文学科は、既存の6コース体制を改変し、多元地域文化コース、心理学コースに分かれます。

多元地域文化コースは、メディアと現代文化コース、比較地域環境コース、日本とアジアコース、ヨーロッパ・アメリカ文化コースを統合したもので、文化・歴史・環境を深く理解し、広い視野から現実の課題を解決できる人材を養成するコースです。

心理学コースは、人間と文化コースを充実し、人間の心と行動を深く理解し、様々な分野で社会に貢献できる人材を養成するコースです。

### カリキュラムの見直し

カリキュラムも全面的に見直し、3つの学びを段階的に習得できるよう科目を整理しました。3つの学びとは、「広く学ぶ」「深く学ぶ」「学びを活かす」を指します。

「広く学ぶ」は、鹿児島大学あるいは法文学部としての基礎教育で、「深く学ぶ」とは、専門領域の基本的な内容を教える科目で、「学びを活かす」とは、実習などによる現場感覚の涵養を通して、習得した専門的知識を具体的な実践に結びつける科目です。

### 法文アドヴァンスト科目

このほか、現場感覚を有し広い視野を獲得するための科目として、「観光学」「島嶼ツーリズム論」「まちづくり論」「マスコミ論」「アクティブ・ゼミ」などの「法文アドヴァンスト科目」を設置しました。

法文学部はより充実した学部として新しく出発いたします。皆様の更なるご援助、ご協力をお願いいたします。

## 専門職大学院報告

### ◎司法政策研究科

鹿児島大学大学院

司法政策研究科長 米田 憲市

司法政策研究科は、平成16年4月に、「地域に学び、地域に貢献する」ことを運営理念として、基本的人権を擁護し社会正義の実現のために地域に尽くす法曹養成を担う専門職大学院 (法科大学院) として設置され



ました。以来、法曹養成と社会貢献活動を一体化する取組を推進してきましたが、平成27年度から学生の募集を停止し、現在在籍する学生が修了すれば、平成29年3月末で廃止となる見込みです。

これまで司法政策研究科は、法文学部後援会より「離島等司法過疎地における法律相談実習」を

中心に、法律総合データベースの導入など、様々なご支援をいただいております。

平成28年度司法試験までに20名の合格者を輩出し、その多くが鹿児島を中心とする弁護士が少ない地域での弁護士活動に従事し、本学の理念を体現してくれています。司法試験の成果は必ずしも多とすることはできませんでしたが、修了生がその恩恵に浴し、他の法律系専門職や、裁判所や法律事務所、自治体の職員や企業で活躍する中で、ご支援いただいた成果を発揮しています。

法科大学院廃止後も、司法政策研究科の修了生は、修了後5年間、司法試験の受験資格を有し研鑽を継続します。鹿児島大学は、在籍学生がいなくなっても、これらの修了生に学修支援を提供することとしており、すべての修了生が受験資格を失うまで、フォローを継続することとしています。

鹿児島大学では、法科大学院を設置してその教育課程を展開する中で、それ以前の学部／大学院教育の経験とは異なる実務的な学修方法の展開や教育方法についてのノウハウを獲得することができました。鹿児島大学ではこれらの教育資産を継承し、法務学修生として司法試験の合格を目指す修了生のフォローアップをはじめ、高いレベルの充実した法学教育を学部・大学院教育で提供すること、法学分野における教育研究のインフラの提供、すでに専門職として活動している地域の法律系士業などを対象とするリカレント教育や小・中・高等学校での法教育の展開、地域貢献の取組の継続などのために、平成27年3月1日付で「司法政策教育研究センター」を設置しました。このセンターは、平成29年4月に設けられる鹿児島大学社会貢献機構に位置づけられることになっており、今後より広いネットワークの下での法学分野の教育研究の推進を目指し新たな展開をすることが期待されています。

法律を学んだ者のニーズは「つぶしのきく法学士」から「鍛えられた専門家」へとシフトしています。今後も、鹿児島大学として、法文学部・人文社会科学研究所とともに、鹿児島大学への法学教育に応えるべく取り組みます。

そして、区切りを迎える前に、法文学部後援会のみならずには、これまでのご厚情に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

※センターでは、月数回、無料の法律相談を実施しています。是非ご利用下さい。

<http://www.ls.kagoshima-u.ac.jp>

## ◎臨床心理学研究科

鹿児島大学大学院

臨床心理学研究科研究科長 中原 睦美

後援会の皆様には、臨床心理分野専門職大学院として平成19年度の研究科設置以来、多大なご支援をいただき厚く御礼申し上げます。おかげさまで設置11年目を迎えようとしております。平成28年度活動を報告させていただきます。



### 1. 認証評価結果で「適合」判定を受けました

専門職大学院で規定されている外部評価として、平成23年度～27年度分について、文部科学大臣により認証された認証評価機関である公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会による2回目となる認証評価を受審しました。「自己点検評価報告書」「大学院基礎データ」「事前確認事項回答書」及び平成24年度以降の「年次報告書」などの書類審査、9月12日のヒアリング及び10月14日の訪問実地調査によるもので、臨床心理分野専門職学位課程として「適合」の判定を受けました。この審査内容は、「評価基準のすべてを満たし、臨床心理士養成の基本理念や当該大学院の目的に照らし、総合的に判断して適合していると認定する」とされるものです。臨床心理分野専門職大学院として基礎的な要件を満たし、社会的に保証できることを意味しており、平成34年3月31日まで期間認証されることになりました。

### 2. 研究科教員組織について

本研究科を立ち上げ、初代研究科長であった山中寛教授が平成28年3月23日に逝去されました。長く病を養いながら最後まで学生指導や相談業務、教授会など尽力されました。ご冥福を祈るとともに先生のご遺志をつないで参りたいと思います。まずは大学のご理解のもと臨床心理学系として後任の採用人事を進め、平成29年4月には9名の専任教員スタッフで再スタートできそうです。本研究科は、外来相談をティーチング・クリニックである付設心理臨床相談室にて外来相談を年間1,300～1,500件受け付け、ここでの実習を臨床心理教育の中核としております。今年度の臨床心理士試験も過年度生を含めた16名が合格し、臨床心理士試験合格率は全修了生の98%が合格しています。学生・教員の努力の賜であり、後援会からのご支援にも依っております。

ます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。これからも高度専門職業人である臨床心理士養成を主眼に、理論と実務実習を架橋した教育及び臨床研究を継続し、地域社会に貢献できる質の高い臨床心理士の養成を目指して邁進していく所存です。以下の臨床心理学研究科ホームページも是非ご覧ください。

<http://www.leh.kagoshima-u.ac.jp/kumcp/>

## 就職支援室より

### ◎平成28年度就職支援室活動報告

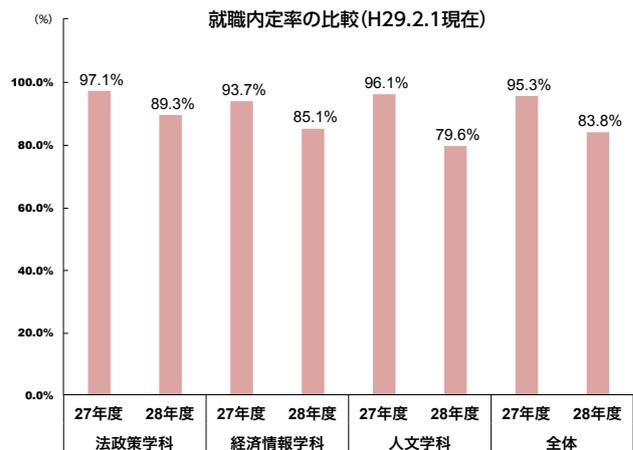
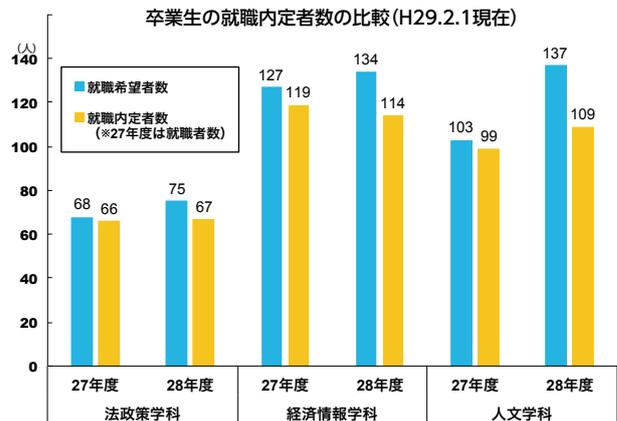
就職支援室長 藤田 紘一

選考開始時期が2か月繰り上がり、6月となった2017年卒の新卒採用は、スケジュールが圧縮された上に、2016年卒採用で未充足の企業が多かったこともあり、早い時期から活発な動きが見られました。

そうした環境下であって、今春卒業する法文学部4年生の就職内定率は、平成29年2月1日現在81.7%で前年同期に比べ、1.6ポイント上回る結果となりました。これは景気回復の持続を反映し、売り手市場が続いたことが主な原因と思われます。それでは2018年大卒の採用は、どんな動きになりそうなのか予想しますと、2017年卒採用並に、学生を採用したいという企業は多いと思われます。求人倍率も堅調に推移しており、採用スケジュールも2017年卒を踏襲することになっています。そうしたなかで、今後インターンシップに力を入れる企業が増えるのは間違いないでしょう。また、大手企業を中心に手法の多様化、複線化が一層進む兆しが見えています。具体的には、人材紹介会社の活用や逆求人への導入、採用直結型インターンシップなどです。

以上の観点から、現4年生と同じ過密スケジュールの下で、3月から就職活動をスタートする現3年生に、志望企業に確実に内定するための3つのポイントを挙げますので、しっかりと念頭に置き、就職活動を行っていただきたいと思います。

1. 早期の自己分析によって志望業界（企業）を早い段階で決定する。
2. その志望業界（企業）に、インターン参加やOB・OG訪問を行い、積極的にアピールする。
3. 2をしっかり行うことで、本選考では面接を有利に進めることができる。



### ◎就職活動に係る交通費の一部支援事業

法文学部後援会では、学生が就職活動中に支出した交通費の一部を補助する事業を行っています。少しでも学生の負担を軽減できればと願っています。ここでは、この支援事業を利用して就職活動を行った学生からの報告を掲載しました。学生たちの就職活動の現状を知る参考にしていただければ幸いです。

#### ◆交通費支援を受けて

経済情報学科4年 原園 怜奈

私の就職活動は大学3年の2月から始まりました。県内外のインターンシップにそれぞれ参加したことで、より一層県外への就職意欲が高まりました。しかし、一昨年度、昨年度とは異なる就職活動のスケジュールに変更になりました。3年3月の広報解禁から4年6月の内定出し、というこれまでにない短い期間で勝負に出ないといけないのが私たちの年でした。私は企業の採用担当者と密にコミュニケーションがとれる個別面談や企業説明会に参加し、情報収集を積極的に行うよう心がけていました。その

ため、4月から6月にかけては少なくとも週1回は県外に就職活動に出かけていました。私の就職活動の拠点は福岡・大阪・東京と幅広く、ある時は一日の間に鹿児島から福岡、大阪まで移動することもありました。

そんな状況の中、私は後援会による交通費一部支援の存在を張り紙で知りました。後援会に加入している学部生に対し、鹿児島県外への就職活動（企業説明会や採用面接等）の際に一人1回、最大5,000円を支給されるという内容のものでした。就職活動のためにアルバイトでの貯金をずっと行っていたのですが、移動の出費はやはり大きいものでした。そのため、この交通費一部支援は県外で就職活動を行っている私にとって、とても助かる支援制度でした。県外への就職活動に積極的に参加した結果、4年の6月に内々定をいただき、就職活動を終えることができました。後援会の皆様にお礼を申し上げるとともに、これから鹿大OB・OGとして活躍ができるよう仕事に邁進していきたいと考えています。ありがとうございました。

## ◆交通費支援を受けて

法文学部人文学科4年 迫田 真理恵

私が就職活動を本格的に開始したのは、3年生の2月からでした。

就職活動に慣れるまでの間は、戸惑いや焦りが多く手探り状態でした。就職活動を始めた当初はインターンシップに参加したいと考えたことも何度かありましたが、私が希望していたほとんどの企業のインターンシップは関東地域で開催されるものでした。インターンシップの説明会や面接に行く為ですら飛行機代やホテル代が必要と知り、金銭的なことを含めて様々なことを考えた結果、応募を諦めてしまいました。

鹿児島のように地方大学出身の学生が関東や関西の企業を志望している場合、お金や移動時間など、他地域の学生と比較すると多くの負担がのしかかってしまうのが現実です。

しかし、5月に法文学部の学生係を訪れた際、ある掲示を見つけました。そこには、後援会に加入している学生を対象に、就職活動の交通費の一部を補助してくれる支援事業があるということが書かれていました。非常に有難い支援事業だと感じました。

私はその支援事業で支給して頂いたお金で希望していた企業の一次面接に行きました。結果的には、

私の最終的な就職先はその就職活動の支援金を利用して参加した企業となりました。

就職活動を終えた現在、後援会の金銭的なご支援もあったからこそ、就職活動を最後まで頑張りぬくことができたのだと実感しております。このような金銭的な支援を提供して下さった後援会の皆様には、この場をお借りして深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

## 主な支援事業の成果報告

### ◎留学支援事業

法文学部後援会では、会員の皆さまからお預かりした会費を、学生が国内外で行う調査実習の旅費や、教育・研究活動の経費の補助に活用しています。ここでは、その一部を成果報告としてご紹介します。

### ◆ニュージーランド・ウェリントン 「経験を自信へ」

経済情報学科4年 久保 愛実



ワーキングホリデーを利用しニュージーランドに約半年間滞在しました。最初の1ヶ月間はウェリントンにある語学学校に通い、多くの友達を得ることができました。なるべく日本人のグループに入らないようにし、自分から話しかける努力をすると相手から放課後や週末、遊びに誘ってくれるようになりました。授業では自ら上のクラスへの変更を相談し、おかげでウェリントンのラジオに出演することもできました。毎週金曜日には卒業する生徒が全校生徒の前でスピーチします。入学したばかりの頃は私にうまくスピーチできるのか不安でしたが、そこでの1ヶ月間の経験が私に自信を与えはつきりと話すことができました。

語学学校卒業後は現地の方の家を6ヶ所まわり、住む所と食べ物を提供していただく代わりに1日約4～5時間その家の方のお手伝いをしました。養苗場、サタデーマーケット、お年寄りのお世話や家事、酪農場、バックパッカー、果樹園など様々な場所で働き、初めて経験することも多くありました。田舎で生活していたときは水不足にあったり、行く先々の家の生活スタイルが大きく異なったりと少しの苦勞はありましたが、家の方がニュージーランドの文化や歴史、抱えている問題などを幅広く教えてくださり多くの知識が得られたとともに、日本についても十分に理解していない部分があったなと改めて気づかされました。またニュージーランド人だけではなく、ドイツやフランスなど様々な国の方との出会いもあり、彼らのコミュニケーション能力の高さに驚きました。多くの方のおかげで語学力も向上し現地の方にもお褒めの言葉を何度かいただきました。

帰国後の就職活動ではうまくいかないこともありましたが、ニュージーランドで自分が成し遂げてきたことを思い出し自信を取り戻すことで、広告や出版を扱う地元の企業に内定をいただくことができました。ニュージーランドで出会った自分と異なった価値観や文化を持つ人々との経験から偏った視点からでなく、「伝える」という仕事に関わっていきたいと思います。

## ◆レンヌ第二オードブルターニュ大学 (フランス)

人文学科4年 中村 優天

フランス語の上達はもちろんのこと、フランス人の生活にふれて彼らの生き方、思想に触れたいと思い、渡仏しました。学習では、フランス語とフランス文学を中心に力を入れました。うまく話が切り出せなくて悩んだ日もありましたが、会話を聞き取れるようになるにつれ、徐々に参加していくことができました。学校の外でフランス人の会話を聞き、彼らの生き方、考え方を知り、また面白いと感じました。現地で学習することで、フランス語のリズムをつかみ、特有の表現を会話の中で学んでいくこともできました。他国の留学生と交流しながら、各国の言葉の表現の仕方、文化にも触れ、関心が広がりました。文学の授業では、さまざまな時代の多様な文学を原文で味わうことができました。生活の中で気が付いたことは、フランス人はよく挨拶をすると



いうことです。頬にキスしあう挨拶に始まり、お店に入出入りするときは、店員さんと顔を見ながら挨拶をします。お礼を言い、良い一日を過ごしてねなどという挨拶をかわせるとそれだけでいい気分になりました。一人ひとりとの関わり合いを持つという習慣が染みついていることを実感できました。一人ひとりが対等である「平等」の精神を見る場面は生活の中でよくありました。

留学生活の後半では、市民、学生のデモ行進や、労働者たちの大規模なストライキの影響を目の当たりにしました。政治の在り方についてそれぞれが考え、すぐに行動する積極性には、驚きと感心の部分がありました。休みの日が来れば、特色のあるブルターニュの自然やフランスのあちこちに残る城や聖堂などをたくさん見に行きました。自然の中でくつろぐフランス人の姿もたくさん見られました。休日を利用して自然を見、肉体的または精神的な疲労から解放されているのではないかと思いました。また、そういった場所で誰かと時間を共有し、周囲と自分を見つめ整理し、言葉にして共有しようとする姿勢があるように感じました。互いの挨拶、会話、自然に対する関心を良い点だと捉え、自分の生活にとりこみ、また周囲の人にその良さを伝えたいと感じました。世界で注目される日本のいい点を伸ばしつつ、大切な文化が失われないよう、日本人の自国の文化への関心が高まるといいだろうともこの留学を通して考えました。

私はこの留学でことば、生活、精神について、学び、楽しみ、考えることができました。私を支えてくださった多くの方々に心から感謝したいです。

## ◎各種実習への支援（国内）

### ◆平成28年度 NPO 法人頼娃おこそ会× 鹿児島大学平井ゼミ

経済情報学科3年 富永 祐衣



#### 1. 事業の概要

鹿児島大学法文学部平井ゼミでは、毎週授業で書籍を使用し、地域活性化について学んでいます。日頃のゼミの中で学んだ知識を実際のまちおこしに生かすというのが課題の1つであり、課題を解決すべく、平成27年度から交流させていただいているNPO法人頼娃おこそ会にご協力いただき、南九州市頼娃町で2泊3日の合宿という形でアクティブラーニングを開催する運びとなりました。

#### 2. 事業の目的

(1) 学生の視点から南薩地域の魅力を発信するという目標を掲げ、ドライブコースを作成します。また、行政、NPO法人、地域住民にドライブコース企画を発表し、改善点等の意見を頂くことでより充実したドライブコースの完成を目指します。最終的には、作成したドライブコースをドライブコース投稿サイト等で発信します。

(2) 南九州市頼娃町で古民家を利用した民泊事業の準備をしている方を訪問し、看板の作成、ペンキ塗り、障子の張り替えなどのワークショップを行い、民泊事業とはどのようなものなのかを体感します。

(3) 大学での座学を通じて感じた、行政やNPO法人の行うまちおこしに対する疑問や思いを議題とし、トークセッションを行うことで、まちおこしに対する理解を深め、今後の座学や実践活動に生かします。

#### 3. 事業の成果

(1) ドライブコースの作成・ドライブコース発表会  
ゼミ内で4つのグループに分かれ、各自で合宿前からドライブコースの企画案を作成し、準備してきました。合宿1日目には、実際に企画したドライブ

コースを周り、企画に問題点がないかを探る現地調査を行いました。合宿2日目には行政、NPO法人、地域住民を招いて企画を発表し、その後参加者全員で討論を行い、学生では気づくことができなかった改善点など多くの意見を頂き、ドライブコースをより良いものに上げることができました。

#### (2) 民泊施設でのワークショップ

ワークショップを民泊運営者とともに行うことで、古民家を改装して民泊を行う大変さを強く感じ、これまでの座学で学んできた民泊に関する知識をより深めることができました。

#### (3) トークセッション

「まちおこしにおける成功とは何なのか」をトークテーマに設定し、行政、NPO法人、平井ゼミ学生の3者で議論を行いました。議論の中で、NPO法人が主体となり、まちおこしをする苦勞、行政から見たNPO法人の姿やまちおこしへの思いなど、日頃のゼミで使用する書籍では学ぶことができない様々な現場の声を聞くことができました。まちおこしに対し学生が持っていた考えを、多様な視点から見直す良い機会となりました。

## ◆東京経済大学との日銀グランプリ報告会

経済情報学科3年 南 貴徳

永田ゼミは、7月16日、17日に、東京経済大学の石川雅也ゼミと安田行宏ゼミと合同で、日本銀行主催の懸賞論文「日銀グランプリ」への応募論文の中間発表会を行いました。東京経済大学は、これまで「日銀グランプリ」で何度も入賞している常連校です。

永田ゼミからは2チームが発表し、発表テーマは、「高齢者資産活用」と、「クラウドファンディングによる震災復興・地域振興」です。高齢者資産活用のチームは、資産担保貸出の制度について詳しく調査し、その上で改善案を提言したこともあり、多くの意見や提案を頂きました。資産活用について



の詳細な知見や、提言に足りない論理、提言に加えると有効な新たな論理などの指摘を頂き、論文の価値を高めるための要素を十分に吸収できました。クラウドファンディングによる震災復興・地域振興のチームは、クラウドファンディングについて詳しく述べていたことで、同様に多くの意見を得ることができました。具体的には、阪神淡路大震災から復興した神戸市などの大都市を参考にすることと、クラウドファンディングの金融における再定義の必要性などです。

初日の発表会の後に懇親会を行いました。懇親会でさらに親睦を深め、お互いの論文についての意見を交換しました。また、石川先生や安田先生、銀行OBの長谷川信久氏から、執筆論文へのアドバイスを頂きました。

2日間で東京経済大学の多くのチームの個性的な発表を目の当たりにして刺激を受け、東京経済大学の発表へ質問や提案をしたことはもちろん、他大学の学生や教員からの視点で永田ゼミの論文へご指摘等頂き、大変貴重な時間を過ごすことができました。この中間発表会の成果を9月末提出の「日銀グランプリ」論文に活かしていこうと思いました。

最後に、この中間報告会を行うにあたり後援会より補助をいただいたことに深く感謝申し上げます。中間報告会で多くのことを学ぶことができ、東京経済大学の学生と交流を深めることができました。この経験を活かして、これからも学業に専念していきたいと思えます。

## ◆「関西史跡巡見」報告

人文学科3年 山下 峻



日本史系ゼミ所属の私たちは、2016年10月27日から30日の4日間、自身の専門であり学習に励んでいる日本史について、知見をより広めるため、大阪・滋賀・京都・奈良の4府県を巡り、古代の史跡

や遺跡、関連資料館を見学してきました。本報告では、巡見の中で行った主な活動と学習成果について報告します。

巡見初日は、大阪市・大津市の歴史博物館を訪れました。とくに難波宮・大津宮関連では、丹念な発掘調査と文献史学の成果を総合した展示・パネル解説が充実していました。順路に配慮された各ブース展示からは、「日本史を総合的に学習する意義」と「課題研究に必要となる多様な切り口」を学びました。

2日目は、午前に関西御所を訪ね、檜皮で葺かれた紫宸殿の壮麗さに圧倒されました。殿舎や宮門を見学した際には、日本の風土にかなった建築の粋を細部に見出されました。午後には外京の寺院群を参拝し、堂塔伽藍が薨を争った仏都としての色彩を強く感じました。平城宮跡散策では、天皇が御出ましになる場である大極殿を目の当たりにし、宮域の広範さを脚で感じることができました。

3日目は、唐招提寺と薬師寺を参拝後、奈良県明日香村へと巡見の旅を進め、秋涼の飛鳥路をレンタサイクルで巡回しました。宮跡・寺址・古墳、特異な石造物を見学する中で、現在では在りし日の荘厳な姿を目にすることがかなわない遺跡もありました。しかし、山田寺や川原寺のように柱跡の配置や基壇の整備が進められているものも多く、往時の存在感を確かなものにすることができました。

最終日は、法隆寺と中宮寺を参拝しました。「仏教文化の世界的宝庫」「日本の世界遺産第一号」などと語られ、古代から現在に至るまで、日本史の中で燦然とかがつ悠然とたたずむ法隆寺を目にできたのは、非常に感慨深いものでした。また同時開催されていた「法隆寺秘宝展」では、室町時代の禁制文書や豊臣秀吉朱印状について、古文書実習の時間に学んだ判読方法を試せたことが印象的でした。

今回の巡見にあたっては、参加者が事前学習を行ったうえで、現地での見学・観察に臨みました。あらかじめ基本情報や関連知識を整理したうえで、実際に現地に足を運ぶことで、単に見聞を広められただけでなく、大学の講義や机上ではなかなか得がたい経験をし、新鮮な感覚を覚えることができました。今回の関西巡見を通して学び私感したことを今後も続く学習や研究に鋭意活用していきたいと思えます。

## ◆「どんぐりの会」への参加を通して学んだこと

臨床心理学専攻1年 伊地知 悠紀



私たちは、出水市出水養護学校における保護者会「どんぐりの会」の集団療育活動に参加しています。この活動は月に1回行われ、障がいをもつ方々と心理療法のひとつである動作法を行っています。参加される方は小学生から成人された方まで年齢が広く、毎月約15名が参加されています。最近では、少しずつ参加者が増え始め、より活発な活動の場となってきました。活動では、動作法に関する指導者資格を持つ先生方の指導のもと、対象者の方々と、養護学校の先生や学生ボランティアが二人一組になり取り組みます。その方に合わせた支援内容や関わり方を考えたり、自分自身の支援の在り方を見直したりと、毎回新たな学びを得る機会となっております。また、活動の後にはその日に行った支援について振り返り、より良い支援にしていくために必要なことを考え議論する時間があり、非常に丁寧な指導を受けながら学ぶことができます。

現在、参加を希望する学生11名の中から、毎月7名が参加しております。私たちは臨床心理士を目指しており、講義では学ぶことのできないことを多く学ぶことのできる現場での活動となります。今後、臨床心理士として働く際に生かすことができる経験になると感じております。法文学部後援会の方々には、こうしたボランティア活動に必要な交通費の一部を負担して頂いております。後援会の皆さまのおかげで、このような貴重な経験を得ることができ、深く感謝申し上げます。

今後も、地域の方々へ貢献できる活動を続けていきたいと考えております。変わらぬご支援の程、よろしくお願い致します。

## ◎大学院生学会発表支援

### ◆2016年次日本島嶼学会大崎上島大会 「奄美大島エコツアーガイドの制度化における諸問題に関する一考察」

人文社会科学研究科地域政策科学専攻2年 宋 多情

私は、博士後期課程の島嶼コースに所属し、人類学を専門に奄美大島のエコツーリズムを研究している韓国の留学生です。修士の頃から奄美大島に通い始め、観光の中でもエコツーリズムに注目して調査を続けてきました。エコツーリズムとは、自然又はその地域が持つ固有の歴史・文化などを、インタプリタであるガイドが案内し、環境への関心を高める、保護意識の高揚など環境教育の機能を持つ観光概念です。奄美大島で体験できるエコツアーの代表的なものは、金作原原生林での散策、マングローブ原生林カヌー体験、ダイビングなどがあります。このような自然観光を、ホスト側（ガイド）がどういう風に自然を認識して資源化するのかを、インタビューや参与観察を通じた調査研究をおこなっています。

今回は、法文学部後援会の支援を受けて、2016年次日本島嶼学会大崎上島大会に参加しました。日本島嶼学会は様々な分野の研究者たちが「島」という共通点で集まり、自ら経験した島の現状と課題を語ります。分野があまりにも離れていると、難しいこともありますが、とても勉強になる学会です。私の報告は、奄美大島エコツアーガイドの制度化における問題を政策の側面と、各主体（ガイド）の異なる発展段階から明らかにするものでした。深い考察までできなかったですが、現状把握と問題の提示はある程度できたと思います。鹿児島県と奄美群島は、世界自然遺産登録に向けた取り組みと、エコツーリズムの推進を同時期に主要な政策として取り上げ、2008年に奄美大島のエコツアーガイド組織化を行いました。登録ガイドを提供するサービスで分類すると、陸域ガイド、ダイビング事業者、集落ガイドに分けられます。政策の面において検討が必要となるのは集落ガイドのことであり、高齢化による担い手の不在とインタプリタとしての質の向上が必要となっております。一方、ガイドの発展段階が異なるということは、ダイビング事業者と陸域ガイドのことであり、陸域の方は、生業としてガイド業を行う人が少ないということで、ガイド同士の連携など体制づくりができていないのがダイビング事業者たちとの

大きな違いでした。遺産化のもと1つのガイド組織を作ってまとめるのは良いことですが、その中身についてはまだ工夫が必要なのが現状です。

今回の学会発表で以上の内容を報告しました。改めて法文学部後援会に感謝の気持ちをお伝えします。

## 保護者の皆様からのメッセージ

保護者の皆様からいただいたお便りの一部をご紹介します。

### ◎人文学科4年生 保護者

娘を支えて助けて下さった皆様ありがとうございます。皆様のお陰で無事に卒業できます。

先生、ゼミ、サークル、友達の話をとっても楽しそ

うにいつも笑顔で話してくれました。そんな娘を見るのが、私も楽しかったです。

後援会の理事になり、先生方とお話をする機会が多くありました。そのお陰で私の知らない娘の一面をたくさん知る事ができました。まさか先生と娘の卒論の話ができるとは思いませんでした。

私が幼い頃 JR ではなく、国鉄時代の話ですが、80代のお母さんが50代の息子の切符を窓口で購入する時「大人1枚子供1枚下さい」と言われました。幼かった私は不思議でした。しかし、今になるとそのお母さんの気持ちがよく分ります。

いくつになっても親は親、子供は子供です。娘を褒めると、「親ばかなんだから」と言います。親は生きてる限りずっと親ばかなのです。

皆さんへお願いします。夢の終わる瞬間は、夢が叶った時ではなく夢を諦めた瞬間です。夢を諦めず追いつけて下さい。

人生は一度きり～ don't より do ～

## 平成28年度保護者アンケート集計結果

法文学部学生生活委員会では、2年ごとに保護者アンケートを実施しております。アンケートの実施方法は、法文学部および大学院人文社会科学研究所の保護者の皆様に、平成28年6月に後援会総会の開催通知に同封し、1260名の保護者あてに送付して、525名の方から御回答いただきました（回答率：41.7%）。お忙しい中、御協力いただき、誠にありがとうございました。

さて、今回のアンケートでは、保護者の8割を超える方が、お子さんが本学部・研究科で学んでいることに「非常に満足」又は「満足」と回答されており、大変有り難い結果となっております。また、多くの保護者の方が、お子さんに「幅広い教養と基礎学力」と「適切な判断能力と実行能力」、「専門分野についての知識」を身につけて欲しいとお考えであることと、「就職支援や就職情報」と「学習成果（成績や単位修得状況等）」に関する情報の提供を強く希望されていることが明らかになりました。

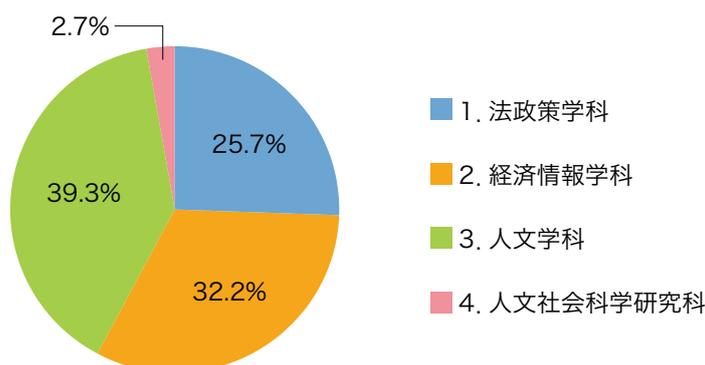
今回のアンケートをもとに、保護者の皆様の御期待に添えますよう、今後もより一層、教育の充実に取り組んで参りたいと思います。

法文学部学生委員会

### ◆お子さんについてお答えください

#### 回答者のお子さん(学生)の所属

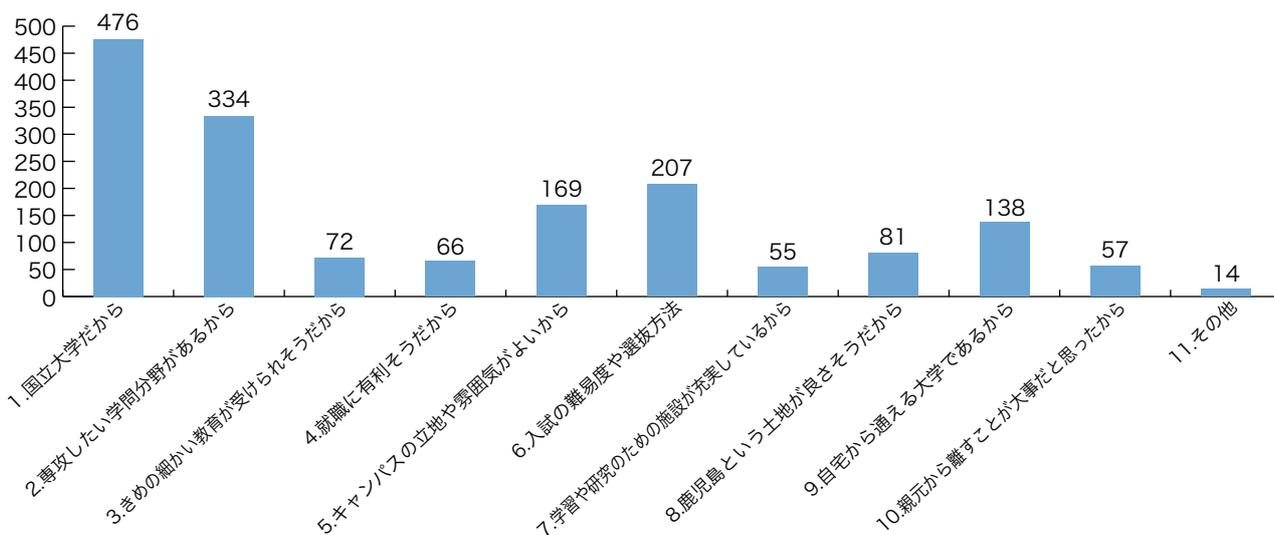
##### 【学生の所属】



◆お子さんの入学及び在籍中の教育等に関してお答えください

①お子さんが本学部・本研究科を選択した際に重視したことは何ですか。

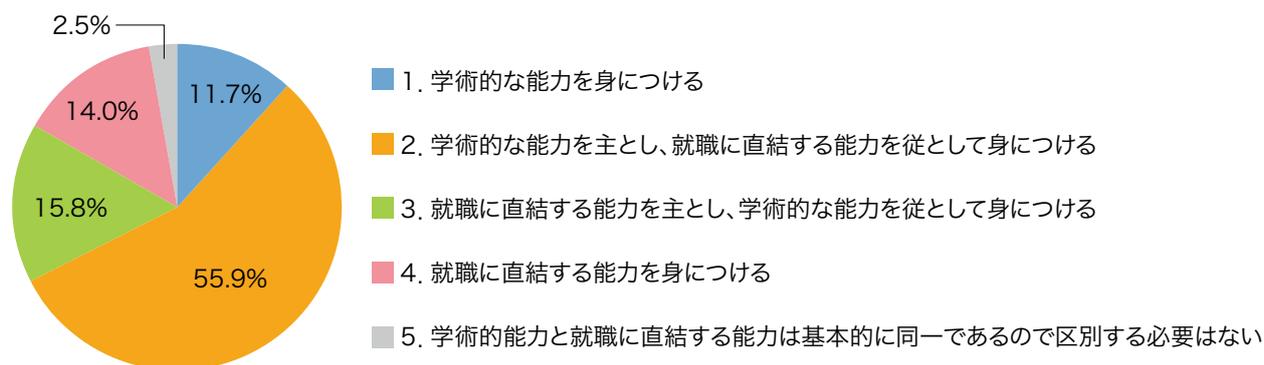
以下の項目から当てはまるものをすべて選んでお答えください。



②本学部・研究科での教育の目的について、どのようにお考えですか。

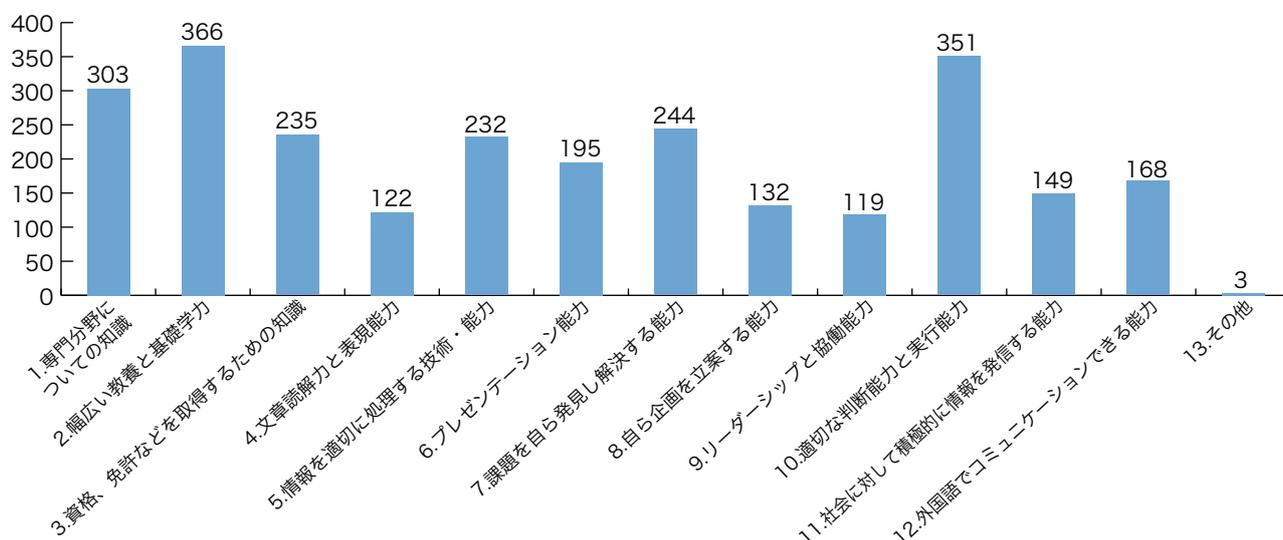
以下の項目から一つ選んでお答えください。

【教育の目的】



③お子さんが本学部・本研究科でどのような知識・能力を修得してほしいとお考えですか。

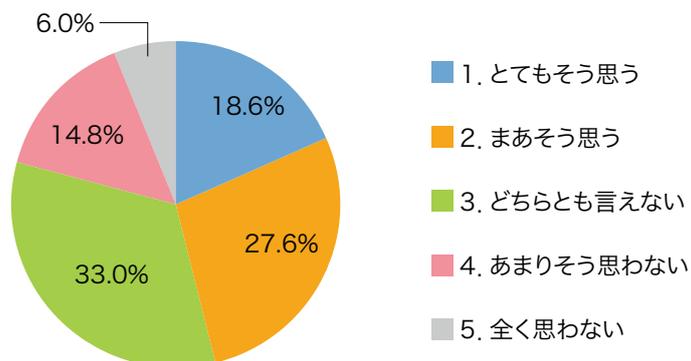
以下の項目から当てはまるものをすべて選んでお答えください。



④お子さんの海外留学についてお答えください。

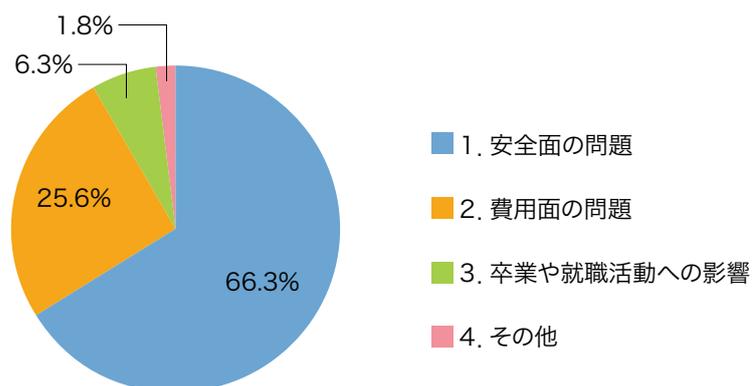
④-1 お子さんに海外留学をさせたいとお考えですか。以下の項目から1つ選んでお答えください。

【留学希望の有無】



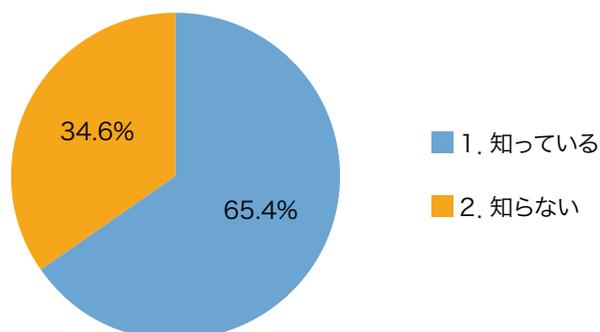
④-2 海外留学について、最も懸念されることは何ですか。以下の項目から1つ選んでお答え下さい。

【留学への懸念事項】



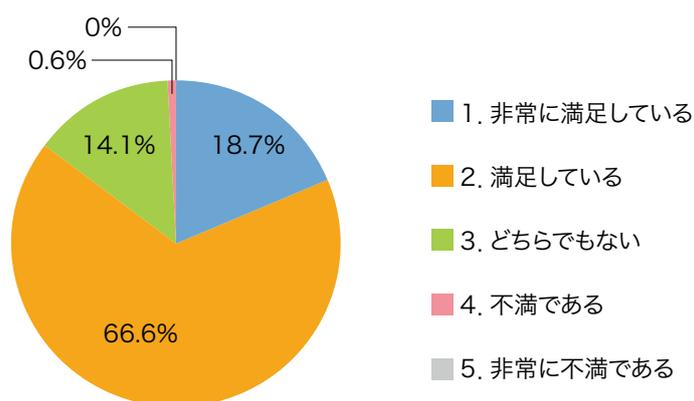
④-3 学術交流協定を締結している海外の大学との交換留学の制度があることをご存じですか。

【交換留学制度の認知度事】



⑤お子さんが本学部・本研究科で学んでいることに満足していますか。

【本学部・本研究科で学ぶことへの満足度】

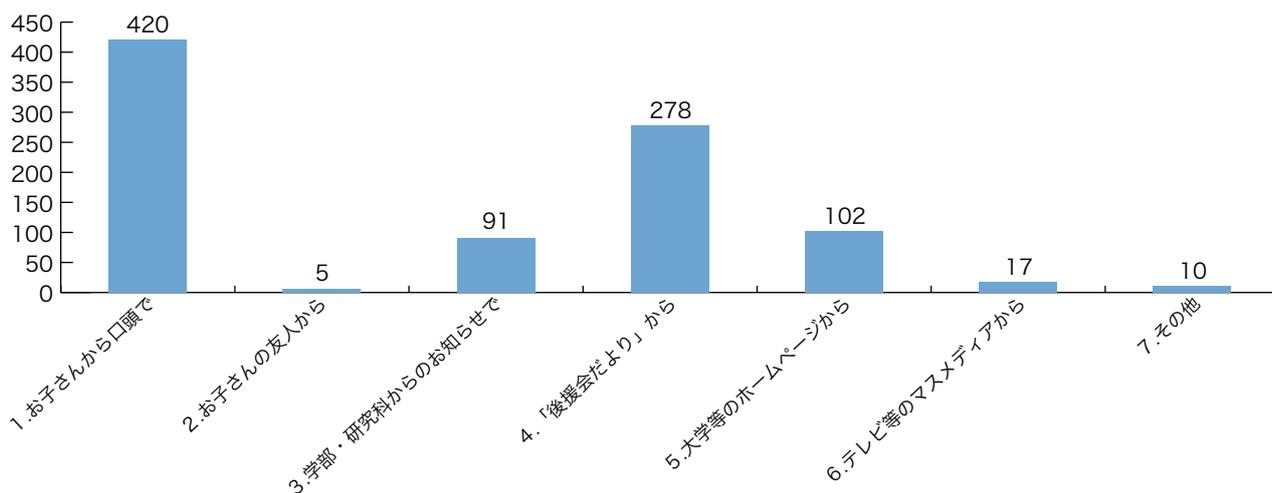


◆本学部・本研究科から保護者に対する情報提供についてお答えください。

①本学部・本研究科の動向やお子さんの学習等についてどこから情報を得ていますか。

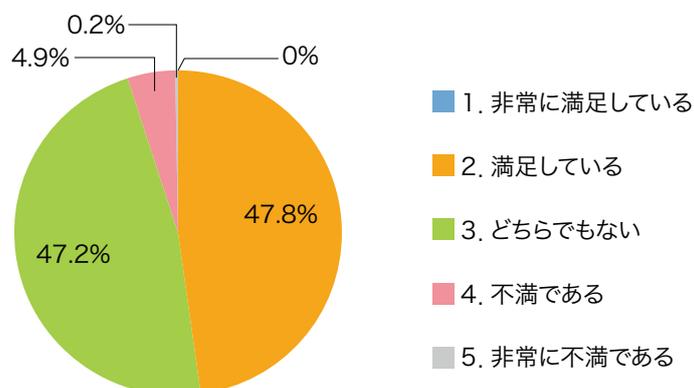
以下の項目から2つまで選んでお答えください。

【情報源】



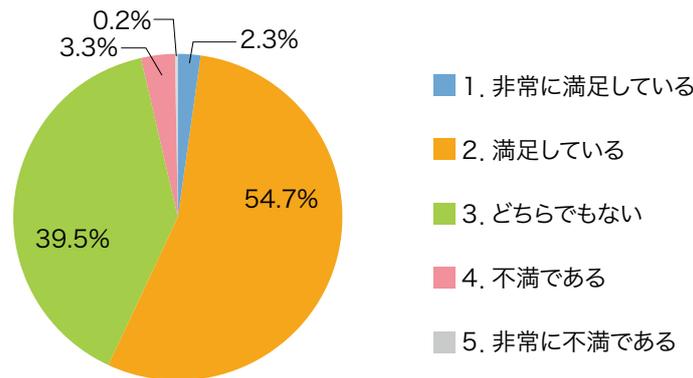
②本学部・本研究科からの情報提供に満足していますか。

【情報提供への満足度】



③「後援会だより」(年2回)の内容・刊行頻度等について満足していますか。

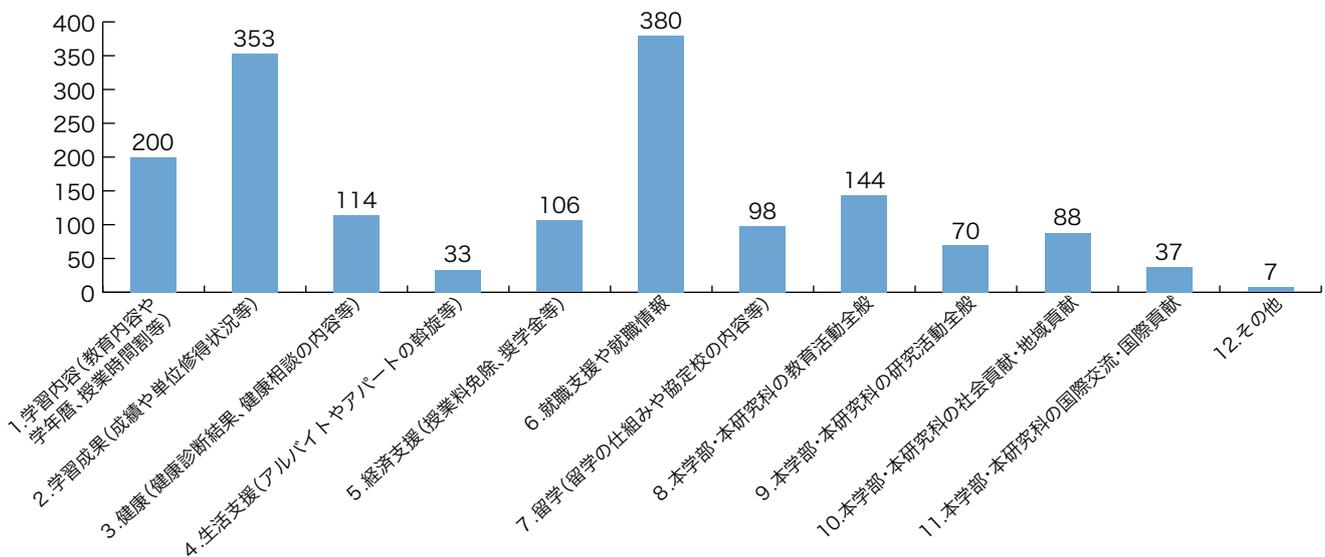
【後援会だよりへの満足度】



④お子さんに関連して、もっと知らせてほしい情報は何か。

以下の項目から、4つまで選んでお答えください。

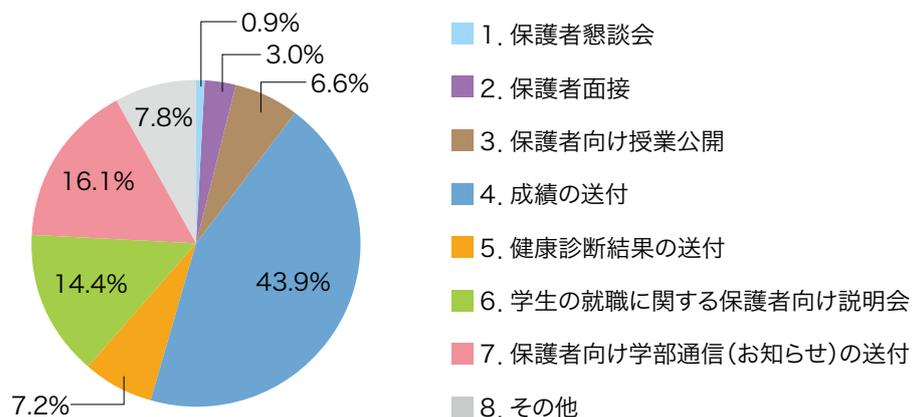
【知らせてほしい情報】



⑤保護者向けに実施してほしいことは何ですか。

以下の項目から1つだけ選んでお答えください。

【実施希望事業】



## アンケートで寄せられた意見や要望

### ● 情報提供について

- ◇ 経済情報学科在学中に取り得る免許・資格について、学校教諭以外で詳しく学生に情報提供してほしい。実技的な能力も身に付けられるのか、身につける場を提供してほしいです。学生時代に、社会に出た時役に立つ能力を出来るだけ身につけてほしいので、様々な情報を保護者にも教えてほしいです。
- ◇ 何度か、このアンケートに回答しております。集計結果をはじめ、お調べになった事が、何にどう活かされているのか、フィードバック的な報告を頂けると有難いです。期待しています。よろしくおねがいします。
- ◇ 子供からなかなか話を聞けないので、情報提供の場を増やしていただけると、とてもありがたいと思います。
- ◇ 成績や単位修得状況については、前・後期各に保護者宛てに送付していただけると助かります。姉、兄の時は（他大学）送られて来ていましたので安心できました。
- ◇ 成績や健康診断の結果が分からないので、不安です。送付して欲しい。
- ◇ 成績や出欠、就職についての取り組み等の情報が無いのが不安である。三者面談等の機会も一度でいいので設けて欲しい。
- ◇ 授業時間割を送付して欲しい（子どもに尋ねても正確なところが分からない）。
- ◇ 留学支援と情報提供を望みます。
- ◇ 就職に関する大学の支援等の状況、情報が判りませんでした。
- ◇ 大学院ゼミで問題が生じ、子どもが退学したいと言いつつ出した。現在の状況が分からないので、心配している。
- ◇ 基本的に大学生の生活を保護者がすべて把握する必要はないと思います。ただ、必要な場合（健診で問題が生じた、無断欠席が続く、単位をたくさん落とした）、連絡してほしい。
- ◇ 高卒で働いている人は一社会人として頑張っている。大学生も同じだと思う。保護者アンケートや情報提供が考えられない。学生本人にもっと考えさせるべきでは。

### ● 教育・研究について

- ◇ 先日ニュースで国立大学は理系を残していくような感じに将来なっていくだろうという内容のことを耳にしました。法文学部は貴重な文系の学部ですので、文系専攻の学生の目標として今後も残して欲しいです。鹿大は総合大学でいてほしいです。
- ◇ 子どもの話からだけでは、事実はわかりませんが、授業の内容、教授たちの授業のやり方等、たまにえっと疑うような事をされてる先生もいらっしゃる様子で、大学側にそういう先生たちへのチェック機能とかあるのか、と思います。親としては、決して安くはない授業料、生活費を仕送りしているのに、国立大学という安定した場にいる先生たちの大学生を育てるという意識がマンネリ化しているのではないかと思います。歴史のある土地にある国立大学の教育者として子どもたちを育てて欲しいものです。
- ◇ 担当の先生によって課題の量等がかなり違いがあるようです。毎晩、遅くまで、パソコンに向かっていて大変そうです。体調の方がとても心配になります。
- ◇ 先日、大分大学で講師からのアカデミックハラスメントで学生が自殺したというニュースを見ました。大切な息子さんを失ったご両親の悲しみを思うととても人ごととは思えません。今の学生たちは見た目は立派な体格をしていても心は幼いような気がしています。1人1人の性格に対応していただけるように心がけていただくと親としても少し安心できます。
- ◇ ある先生の講義内容の稚拙さが家族の会話で話題になります。YouTubeの動画を見ても疑問に感じることも多いです。豊富なプレゼン資料を配付しても、なかなか進まないのが不満です。改善案を要望します。
- ◇ 何もかも初めてのことで、履修科目を選ぶ時などは一人で大変だったようですが、いろいろと聞き、何とかできたようで安心しています。質問に対して大学側がきちんと答えていただければ、これからも安心してお任せできると思っています。
- ◇ 研究が資格や就職につながっていくように希望します。
- ◇ 中古文学教員の充実。人文科学の重要性を文科省に説得できるくらいの熱意。
- ◇ 博士後期課程の課程博士は積極的に認め、また、指導してほしい
- ◇ 貴学は地域創生を担う人材育成に力を入れているが、グローバルな人材、国際的に活躍できる人材の育成がもっと必要なのではと思う。

### ● 大学生活について

- キャンパスの立地や雰囲気が良いようなことは入学前から感じていましたが、親元から離れ1人で学生生活を送る中で、大きく成長したことに満足しています。仕事の都合のため、毎年後援会の総会には参加できませんが、きっと鹿児島ので、たくさんの先生方や友人、地域の方々のおかげで、充実した暮らしを送ることができているのだと思います。
- 特別な事柄はありません。鹿大に入って良かったねと親子で言っています。街自体が便利で生活しやすく、広々としたキャンパスで緑があって良かったです。学ぶのは東大でも鹿大でも本人次第と親子で思っていますので、鹿大で良かった

た！と思って誇りに思っています。本人自身の学び方、生き方を尊重しています。鹿児島に行った時は楽しく過ごせて（色々と便利で）鹿大で良かったです。後は、鹿大の方々が学生や勉強について真剣に取り組んでもらい、いつまでもドーンとその地にかまえて立っていて下さい。

- ゼミ対抗バレーボールの試合があると聞いている。見学応援したいのだが、無理だろうか？
- 親元を離れているため、生活面が心配です。アルバイト情報の取りまとめや就活活動をサポートしてほしい。
- 女子では全額使えないので、少額のミールカードがあると助かります。
- 学内の診療所の受付時間を学生が使いやすい時間に配慮してほしい。
- 子どもを取り巻く環境に危険が多いが、若いときにたくさん経験して欲しい。中央の大学に負けない充実した学生生活を送れることを望みます。
- 本年で4年目の鹿児島での学生生活が出来ている事を感謝申し上げます。有難うございました。
- いつもありがとうございます。国への要望として、授業料減額・奨学金の給付化をお願いしたい。
- 授業料免除関係など経済支援の方、たいへんお世話になりました。ありがとうございます。

## ● 就職・進路について

- 総会、懇談会に出席できず残念です。我が子は、人文学科2年心理コースで学んでおりますが、後援会の支援としては、どのようなものがあるのか具体的に知りたいと思いました。
- 学生の就職に関する保護者向け説明会を年1回どの学年でも開催して欲しい。
- 現在4年生であり、就職試験で苦勞している。大学側も多方面に配慮して欲しい。
- 大学で学んだことが活かせる職種がなかなかないようで、子どもも不安なようです。
- 海商法ゼミの内容が知りたい。卒業生の就職先を知りたい。

## ● 後援会について

- 教育内容や成果を知りたいので、後援会便りを年2回にして欲しい。後援会総会に出席できないが内容は知りたいので、後援会便りに載せて欲しい。
- いつも後援会だよりを楽しみにしています。今後ともよろしく願います。
- 事務局の先生方をはじめ、役員の皆様には大変お世話になっております。様々な支援事業に感謝の気持ちで一杯です。今後ともよろしく願います。

## 【「成績送付」について】

以前から多くのご要望をいただいております「成績送付」についてご報告いたします。

法文学部では、保証人との連携により、学生への適切な修学指導を行うことを目的として、平成28年度から全学生の成績を前期終了後に保証人あてに通知することとなりました。成績をご確認いただき、参考にいただければ幸いです。

送付にあたっては、学生本人にwebへご登録いただいている保証人のご住所へ送付しておりますが、一部、住所の誤字・不足等によりお届けできていない場合がございます。該当の学生については登録住所の変更などを依頼しておりますが、保証人様におかれましても、住所の変更等ございましたら、学生へ変更の手続きをするようお伝えいただければ幸いです。

## 平成 28 年度後援会役員一覧

会 長：石堂敦志	副 会 長：秋丸幸子	(臨床心理学研究科) 前之園真弓
顧 問：高津 孝	常任理事：金丸 哲	理 事〔教 員〕：
理 事〔保護者・社会人学生(本人)〕：		(法政策学科) 森尾成之
(法政策学科) 永留宏幸、福田智子		(経済情報学科) 石塚孔信
(経済情報学科) 石堂敦志、秋丸幸子		(人文学科) 飯田昌子
(人文学科) 高橋絹代		(司法政策研究科) 伊藤周平
(人文社会科学研究科) 寿 洋一郎		(臨床心理学研究科) 宇都宮 敦浩
(司法政策研究科) 小島くみ		監 査：野間尚宣、澤田成章 監事：上國料 宏

### 問い合わせ先 鹿児島大学法文学部後援会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 電話099-285-7510 (7602) FAX 099-285-7609  
E-mail kouenkai@leh.kagoshima-u.ac.jp 後援会ホームページ <http://www.kadai-houbun-kouenkai.jp/>